

2013年度第3回環境工学委員会建築設備運営委員会 議事録

- 日時：2013年11月28日（木） 17：00-19：30
- 場所：建築会館（東京都港区）
- 出席者：郡公子、長井達夫、長谷川巖、(赤司泰義)、(秋元孝之)、石野久彌、(猪岡達夫)、(宇田川光弘)、岡建雄、(川瀬貴晴)、古賀誉章、(小林陽一)、(坂上恭助)、佐々木邦治、(佐野武仁)、清水昭浩、(高井啓明)、(高草智)、(仲野章生)、(中野淳太)、(二宮秀興)、(野部達夫)、羽山広文、細淵勇人、(本間睦朗)、(松本真一)、三浦克弘、森川元樹、(柳井崇)、(横山計三)、(吉田治典) (カッコ内は欠席)
- 配布資料
 1. 資料3-1 建築設備運営委員会2013年度第3回 議事次第
 2. 資料3-2 建築設備運営委員会2013年度第2回 議事録案
 3. 資料3-3 2013年度第3回環境工学委員会議題
 4. 資料3-4 日本建築学会大賞候補功績理由書
 5. 資料3-5-1～3.5.8 委員会・小委員会活動計画案等
 6. 資料3-5-2 ヒューマンファクタに配慮した環境構築小委員会（第3回）議事録案
 7. 資料3-5-3 第2回気象データ小委員会 議事録(案)
 8. 資料3-5-4 環境設備に関する学会基準(AIJES)における性能レベル検討小委員会議事録(案)
 9. 資料3-5-5～6 次世代排水システム小委員会 第9回議事録案、「排水トラップの技術規定について」
 10. 資料3-5-7 環境建築システム小委員会活動計画書
 11. 資料3-5-8 ガラス建築と環境WG委員会状況報告、デザインハンドブック目次案
 12. 資料3-6-1～3.6.2 第9回建築設備シンポジウム 報告書、アンケート結果、参加人数リスト（回覧資料）
 13. 資料3-6-3 第10回建築設備シンポジウムについて
- 議題
 1. 前回議事録確認（資料3-2）
 - ・異議なく了承された。
 2. 環境工学委員会報告（資料3-3）
 - ・大賞候補としては、村上先生、安岡先生、中原先生のうち、村上先生が環境工学委員会からの推薦となった。複数の推薦が出たときのルールをどうするかが今後の課題となる。
 - ・学会賞（論文部会）選考委員会委員候補としては井上先生が挙げた。
 - ・奨励賞選考委員会委員候補では、空気と熱から推薦する。
 - ・2014年度大会（近畿）における研究協議会は、「都市再生における建築環境工学の役割」となった。
 - ・研究懇談会は、若手研究者による発表として細淵先生による発表を予定する。
 - ・オーガナイズドセッションは、「環境工学の評価技術」とし、6つ程度のテーマで行う。概要メ

切は 2/11 までである。

- ・建築基準法に基づく技術基準の見直し等については、次世代排水システム小委員会から提案が出された。

- ・刊行計画書、刊行企画書では、「(AIJES) 機械・サイホン排水システム設計ガイドライン」では次世代排水システム小委員会の 3 つの WG でまとめた企画書が提出された。

→「クールルーフガイドブック」「集合住宅騒音防止住まい方マニュアル」の担当や出版社はどこか。参考にしたい（石野委員）

- ・シンポジウム実施報告の説明をした。

- ・次年度活動計画については回覧のみであり、次世代排水システムの会員外の委員委嘱申請は認められた。

- ・予算執行については、現在の執行率が 17%と低いので、旅費等の支出申請をお願いしたい。また余剰金は他の委員会で使う可能性があるため、2 月以降の予算執行は 1 月末までに執行予定を立てること。

3. 日本建築学会大賞について（資料 3-4）

環境工学委員会報告で報告したとおりの内容である。

4. 各小委員会の活動計画と報告（資料 3-5.1～3.5.8）

1) 建築設備運営委員会（資料 3-5-1）

昨年度のを踏襲し、活動内容は例年どおりをした。

2) ヒューマンファクタに配慮した環境構築小委員会（三浦委員、資料 3-5-2）

現在は事例調査を行っているが、最終成果は設計ガイドラインとしたい。設備のハードウェアではなく、ヒューマンファクタという概念を設計ガイドラインに取り入れて行きたい。

→温冷感や熱環境の研究にも見える。湿度等との関係も考えられる。（石野委員）

3) 気象データ小委員会（細淵委員、資料 3-5-3）

UV-A モデルは 5 つの大学でデータ収集をしておりこれを取りまとめる予定である。多地点観測ネットワークは温湿度データを都内に設置しアメダスのデータと比較をする。東南アジア気象データの整備、PAR の推定等を行っている。30 年拡張アメダス気象データの整備を行うが最終的には MDS で取りまとめを行う。

→以前には 20 年、10 年データとも言われたが、何故 30 年なのか、どの気象データをすすめるのかを分かった方が良い。（石野委員、郡委員）

4) 環境設備に関する学会規準 (AIJES) における性能レベル検討小委員会（森川委員、3-5-4）

中小規模の建物を対象として、設計者が施主に対して設計レベルを提示し、施主が判断できるような規準、インターフェースを構築し、省エネに資することを目的として議論を行っている。

5) 次世代排水システム小委員会（古賀委員、資料 3-5-5～6）

満流による小径排水システムや自封式トラップの諸特性を評価する。設計ガイドラインが順調に仕上がっているため、3 年目には刊行委員会を立ち上げて、その進捗状況を見ながら随時確認を行う。併せて事例集を作成するという案が出ている。建築基準法・告示に対する改

定提案については、水封式トラップが前提となった記述があることに対して、信頼できるメカニカルトラップも開発されていることから、改定が必要との意見を提出した。

6) 環境建築システム小委員会 (長井, 3-5-7)

環境建築や設備技術に関する最新動向を収集し、出版を通じて情報発信する計画である。現在、出版物の読者対象、内容構成等について検討している。

7) ガラス建築快適環境 WG (佐々木委員, 3-5-8)

ガラス建築だけでなくファサード全般に対象を広げて情報収集を行って出版に向けて整備を行っている。目次案としては、海外事例、外部・室内環境に関する事項、ファサード・外壁・屋根等についての解説、その他を考えている。

5. 建築設備シンポジウムについて (資料 3-6-1, 資料 3-6-2 (回覧))・

- ・ 275 名が参加した。
- ・ アンケートでは、参加費：普通、職種：設計、来年度以降参加：参加したい、興味深かった点：環境建築事例、という回答が多かった。また改良すべき点として、講演時間・討論の延長、受付の長蛇の列、タイムスケジュールの分かる資料の添付がない、全体のテーマが絞られていない、という回答があった。
- ・ 発表 ppt を HP にアップロードしてほしいという意見があったが、まず設備運営委員会の HP 整備が必要である。その上で、提供しても良いという発表者についてはアップロードすれば良い。
- ・ 事前申し込みの場合参加費を割り引けば、直前・当日になって急に参加者が増えることがないのではないか。
- ・ 学生の参加費を 1,500 円から更に安くできないか事務局に照会する。

6. 来年度の設備シンポジウムについて(資料 3-6-3)

- ・ 開催日は来年 10/15 (水)、建築会館ホールとする。
- ・ 第一部「話題の環境建築に学ぶ」、第二部「設備研究の最新」
- ・ 主旨説明の後、特別講演 (30 分) を行う。
- ・ 第一部 (環境建築事例) について、1 題あたりの発表時間を増やし 20 分×5 件、質疑の時間も設ける。
- ・ 第二部は 15 分×5 件、質疑の時間も設ける。
- ・ 同じ物件で、設計者と研究者が講演する、という形式も考えられる。但し、そのような物件がどれだけあるか分からない。
- ・ 次回継続審議する。

7. その他

8. 次回以降開催予定

2/21(金) 17:00-19:00 建築会館

最終回として、環境建築の視察の可能性

以上